

こんにちは、BLRの飯田です。

いつも大変お世話になっています。

さて、せっかくの3連休はスーパー台風で大変な目にあいましたね。

特に東日本の方は大変だったと思います。私も関東にいて、目の前に荒川があるのですが、荒川の水位があんなに上がったのは見たことがありません。



いつもは大きなグラウンドやゴルフ場があるような河川敷は全て、川になり、一番上の堤防まであと数メートルまで、推移が上がってきました。

携帯の避難勧告のメールがしょっちゅう鳴り出すし、ついにはここ何十年も無かったような停電にまでなる事態。

風速は60mと言う前情報を予想していたほどではありませんでしたが、雨がひどかった。夏場によくあるゲリラ豪雨のような勢いで一日中に降っていました。

その影響でついには、私の地区も近くにある荒川の支流があふれ出して、地表はひざ上くらいまで浸水していました。

幸いマンションの上の方でしたので直接は影響がありませんでしたが、駐車場の車も完全に水に浸かった状態になっていました。

戸建ての方は大変だと思います。600mm~1000mmの雨が一日で降るとこうなるんだと、思い知らされました。

これがもう一日長く降っていたらと思うと、たぶん荒川も決壊していたんじゃないかと思いません。本当に恐ろしい台風でした。

会員様で被害にあわれた方、またはお客様が被害にあわれた方は、心よりお見舞い申し上げます。そんな暗い気持ちを少しでも明るくしてくれたのが、ラグビーでした。

三週連続の話題で恐縮ですが、ついに4連勝でベスト8ですね。

4年前の借りを返すんだと、すさまじい勢いで、スコットランドに戦いを挑みました。しかし受けるスコットランドも強かった。

決勝トーナメント常連の国が予選リーグで敗退する訳にはいかないという背水の陣から、これも意気込みが違いました。

ガタイも大きく、フィジカルについては、日本を完全に上回るチームでしたが、ここまで来たら、本当に精神力と言う言葉が一番似合っていたような試合でした。



まさに「死闘」という言葉がふさわしい試合でした。

前半のスピーディーな展開から、トライを3本決めて、フォワード陣のオフロードパスからのトライが決まった時点では楽勝かと思いましたが、後半は馬力とライン展開の見事さから、流れはスコットランドに来ていた感じです。

日本の主カメンバーも力尽き、どんどんメンバーチェンジしながらのラスト20分は耐えに耐えた、胃が痛くなるような展開でした。

サモアやアイルランドのように勝ち切った試合ではなく、負けなかったという感じの試合でした。

ともあれ、はじめてのベスト8、本当によく頑張ったと思います。

リーチ主将も絶対必達の目標を達成して、肩の荷が下りたのか、次の南アフリカ戦は試合を楽しみたいとか言っていました。

なんとなくスラムダンクの山王戦の次の試合を思い出します。

ビジョン達成のゆるみを早く解消して次のビジョンをチームに浸透させてほしいと思います。ということで、余談が長くなりましたが、ここからが本編です。

<<ランチェスター戦略の全体像 - 9 >>

今週もランチェスター戦略の概要となります。

ランチェスター戦略は弱者の戦略とよく言われますが、決して弱者だけの戦略ではありません。

当然、強者の戦略についても触れています。

ただ、世の中の大半が弱者側なので、そこを解説するウエイトが多いだけです。

弱者の戦略を続けながら、最後は強者になるための戦略と言ってもいいかもしれません。

自社の会社の条件がそのエリアで強者になった場合は、強者の戦略に思い切って切り替えながら、今度は他社の追随を許さないような戦略を取っていくようになります。

いつかはエリア強者（ナンバー1）になることをビジョンに据えて、それまでは、しっかりと弱者の戦略を一貫して構築、遂行して行ってください。

ぶれずに遂行すればいつかはナンバー1になることができるものと思います。

今回から強者の戦略と弱者の戦略の違いを少し、見ていきたいと思います。

まずは、強者ナンバー1の条件です。次の3つがそろった場合に1位となります。

- ① 1位であること、
- ② 市場占有率（シェア）が26%以上あること、
- ③ そして2位との差が10対6以上あること

この3つの条件がそろった時にナンバー1の強者になります。



そして弱者は2位以下、または上記の条件のどれか一つでも満たしていない場合となります。ウェイト的には世の中の「99.5%が弱者」で「残りの0.5%」が強者と言う割合になりますので弱者の戦略を応用すれば間違いがありません。

では、次に弱者の戦略と強者の戦略の基本的な戦い方について説明します。まず、弱者の戦略は「第一法則」と言い、強者の戦略は「第二法則」と言います。(詳しくは、下記を参照ください)

ランチェスター戦略の「弱者の第一法則」と「強者の第二法則」

- 1) 強者の条件：①1位 ②市場占有率：26%以上 ③2位との差：10対6
2) 弱者の条件：①2位以下または、1位でも上記の条件の一つでも満たしていない場合

| 項目 | 第一法則 (弱者の戦略) | 第二法則 (強者の戦略) | 備考 |
|--------------|-------------------|-----------------------|----|
| 兵力数 | 3人：5人 | 3人：5人 | |
| 攻撃力 (計算式) | 3：5 (兵力数×武器性能) | 9：25 (兵力数の2乗×武器性能) | |
| 残存兵士人数 | 0人：2人 | 0人：4人 | |
| 条件 | 1対1の接近戦 | 離れて戦う確率戦 | |

簡単に言うと第一法則は1対1の戦い方です。
昔の武士の世の中のように接近戦で戦う一対一で戦うやり方です。

次に強者の戦略は一対一ではなく、鉄砲や機関銃のように離れて戦う場合を言います。
これを確率戦と言います。

1914年にランチェスター先生が戦闘機の登場で折から変わってきた空中戦を見ながら、戦い方には二通りのやり方があるということを発明しました。

つまり第一法則と第二法則とでは、兵士の残存率が違ってくることを発明しました。



弱者の第一法則で戦った場合は、5 人对 3 人で戦った時には弱者が全滅した時の強者の残存兵は 2 人になる(5 人-3 人=2 人)のに対して、強者の第二法則で戦った場合は優勢軍の残像兵が 4 人となり、一人しか倒されないこととなります。

($\sqrt{5^2 - 3^2} = 4$)と細かい計算式もあるのですが、一々解説しても、「フーン、そんなんだ。」で終わりますので、そこには触れずにおこうと思います。

そして、これを経営に応用すると弱者は第一法則に従って接近戦で 1 対 1 の戦い方をすることにより、経営効率が良くなり、強者は第二法則の確率戦で戦えば、経営効率が良くなるということになります。

簡単に言うとこれまでなのですが、これを経営戦略に応用するとなると、様々な条件が付帯してきて複雑になります。

これからその複雑な条件等を一つ一つ解説していきますので、しばらくお付き合いください。今週はキリが良いのでこの辺で、次回も戦略全体の話の説明していきたいと思います。

今日も最後まで読んでいただきありがとうございます。

今回はランチェスター戦略の全体像 - 10 についてお話していきたいと思います。

<次回> ランチェスター戦略の全体像 - 10

